

## ⑤ 機内に異臭及び煙、エンジンに炎が発生し、非常脱出

概要：E航空所属ボーイング式737-800型機は、平成28年2月23日、新千歳空港から福岡空港へ向け出発するため、誘導路上で停止していたところ、機内において異臭及び煙が発生し、その後エンジン後部に炎が確認されたため、脱出スライドにより非常脱出を行った。

同機には乗客159名及び乗務員6名の計165名が搭乗していたが、脱出の際、乗客1名が重傷、乗客2名が軽傷を負った。  
同機に機体の損傷はなかった。

### 非常脱出までの経過

14時52分

同機は、激しい降雪による視界不良のため誘導路T2上に停止した

14時58分

操縦室及び客室内で異臭が発生した

14時59分

客室乗務員は運航乗務員に、客室で煙が発生していると報告した

15時01分

客室乗務員は運航乗務員に、機内を見回った結果、煙の発生場所が特定できないこと、煙が客室中央部に充満していること及び降雪により外は見えにくいエンジンから火は出ていないことを報告した

15時06分ごろ

エンジンが停止し炎が確認されたことから、機長は非常脱出の指示を客室乗務員に行った

15時15分

搭乗者全員の脱出が完了した

### 重傷者の内訳と状況

○性別・年齢・不明

脱出スライド下には援助者2名がいたが、自分の次に降りてくる幼児に注目していたのか、自分が降下した時には引き起こしてもらえず、そのまま前方に飛び出し、腰から落ちた。

## 脱出の状況

座席頭上の共用収容棚は、その多くの扉が解放されており、手荷物が持ち出された状態であった

非常脱出時、客室乗務員が荷物を持たないよう大きな声で呼びかけたが、手荷物を持って来る乗客が多く、誘導しながら取り上げた

運航乗務員が操縦室から出ようとしたが、乗客が持ち出そうとした荷物がドアの前に積まれていて、ドアを開けることで乗客の脱出径路を塞ぐことを危惧し、乗客の脱出がほぼ終了した後、客室内に移動した

多数の乗客が持込み手荷物の入った共用収容棚の扉を開き、手荷物を持って脱出スライドを降下しようとしたため、客室乗務員がその手荷物を取り上げる対応を行っていたものと推定される

運航乗務員は乗客がほぼ脱出してから客室内に移動したため、乗客の脱出指揮及び脱出援助を行うことができず、乗客が遵守または注意すべき安全に関する指示が乗客に対して適時に効果的には伝わらなかった可能性が考えられる

## 再発防止策

同社によって講じられた再発防止策

- 安全ビデオの変更
- 客室乗務員が行う定期救難訓練における内容の追加
- 同社グループ社員に対する非常脱出に関わる教育の実施



本事例の調査報告書は当委員会ホームページで公表しております。

(平成 29(2017)年 12 月 21 日公表)

<http://www.mlit.go.jp/jtsb/aircraft/rep-acci/AA2017-9-1-JA322J.pdf>